



Top Commitment

中長期的な視点で夢を描き、
素材という強みを活かして、
社会に必要な価値を
生み出し続けます。

中長期的かつ グローバルな視点の重要性

TDKは2015年12月に創業80周年を迎えます。その節目の年を前に、2014年度は受動部品、磁気応用製品、フィルム応用製品の主要3セグメントでバランスのとれた収益構造が定着し、成長に向けた舵を切ることができました。ここ数年にわたり続けてきた構造改革の成果が見えてきた一方で、振り返って感じるのはさまざまな逆境の中で、萎縮してしまっていたことへの反省です。業績拡大は企業が果たすべき責任として極めて重要ですが、短期的な数字だけにとらわれず、中長期的視点から夢を語れる会社を目指していかなければなりません。明るい未来に向けた成長戦略をストーリーとして打ち立て、変化し続ける社会の時流を見極めながら、事業の中で具体化させていくことが必要です。

創業100周年に向けた新たなスタート地点でもある2015年、「創造によって文化、産業に貢献する」という社是のもと、2035年に向けた再生と成長を確実なものとするために、企業ビジョンと行動指針を新たに策定しました。今後、M&Aも視野にさらなるグローバル展開を続ける上では、一層強い企業へと成長していくための確固たるDNAが不可欠です。その意味で、今回策定した企業ビジョンや行動指針は世界にも通用するものになると自負していますし、今後とも社会の動向を見据え、いつの時代も最適なものであるかを常に見直し続けていきたいと思います。

素材からこだわり抜いた モノづくりを推進

2015年度は、「高い技術力に基づく『ゼロディフェクト品質』の追求」「スピード経営による『真のグローバル化』の推進」「主要3セグメントに続く新規事業で売上1,000億円を創出」「風土改革を実行し失敗を恐れない文化の醸成」を目指した3カ年にわたる新中期経営計画も始動しています。

従来の重点分野であるICT、自動車、産業機器・エネルギーを強化しつつ、高齢化社会を背景に、人々の健康で快適な暮らしに貢献する医療・ヘルスケア分野へも資源を集中し、今後高い成長が見込まれる分野でも、当社ならではの技術を活かした展開を模索していきます。

TDKとして電子部品に注力するのはもちろんで

すが、部品単体を売る時代ではなく、モジュール化への対応を進めていくことは欠かせません。同時に、電子部品一つひとつが最終製品の信頼性を左右する以上、素材レベルから品質を考えていくことが非常に重要です。また、省エネ性能の追求は、もはやあらゆる製品において必須です。しかし、その製品がつくられるまでのプロセスで不必要的エネルギーの負荷をかけていては意味がありません。レアアースを削減した磁石の量産化技術などに続き、環境負荷低減の観点からも素材からこだわり抜いたモノづくりを推進していきます。また、生産プロセス全体の見直しを徹底的に行い、最適な生産ラインを構築することを目的として、原材料から完成品までを一貫でつくるパイロットラインの構築と課題の抽出に努めています。

創業の精神を大切に、さらなる成長へ

現在、TDKは海外生産・海外販売比率が約9割で、グループの従業員もまた約9割が海外人材となっています。日本かそれ以外かという区分はもはや無意味であり、グローバル企業としての認識をしっかりと持った風土改革を進めていかなければなりません。人事制度においても、国籍や人種、性別などにかかわらず能力の高い人をどんどん登用し、成長に挑む人を積極的に評価していきます。

80年という歴史の中、TDKは一貫して人材に重きを置いてきた会社です。当社の強みである技術力はすべて人によって支えられ、プレークスルーを起こす原動力もまた人です。ベンチャー企業としてスタートしたTDKの原点には、創業者の斎藤憲三をはじめ、新たなモノづくりに果敢に取り組んだ人々のオリジナリティへの熱意や挑戦心があります。これからも、TDKのすべての従業員は常にその創業の精神に立ち戻りながら、自分の業務への興味を強め、仕事に努めてほしいと思います。

未来への明るい夢を持ち、毎日胸を躍らせて働く一人ひとりが、人と社会をワクワクさせる会社へとTDKを導きます。それを大きな原動力として、持続可能な社会づくりに貢献していきたいと考えています。

TDK株式会社 代表取締役社長

上釜 健志